本ペーパーの掲載情報は、ウェルココWebサイト掲載情報と一部内容が異なる場合があります。

メンタルストレス尿検査 ココシル

株式会社プリメディカ

従業員の声なき声を拾い上げ、休職予防と労働生産性の向上へ！

https://cocoshiru.com/

サービス分類・提供内容（選択式）		
体制・業務構築支援	産業保健体制構築支援	
	健康経営推進支援	
	ストレスチェック制度対応支援	
	ハラスメント対策支援	
	過重労働対策支援	
	復職支援に係る体制・業務構築支援	
	人事・労務向けアドバイザリー	
調査・分析支援（人的支援）		
現状把握・分析システム	ストレスチェックシステム	
	パルスサーベイ・従業員意識調査	○
	健康・労務データ統合分析システム	
組織づくり・職場環境改善	組織開発コンサルティング	
	管理職向け研修	
	従業員向け研修	
管理職向け個別支援		
従業員支援	相談窓口・カウンセリング	○
	セルフケア研修	
	セルフケア支援アプリ	
	復職支援	

サービス概要・特徴（500文字以内）

問診によるストレスチェックでは、職場に遠慮してご自身の本音を書けない従業員も少なくありません。
実際に、ストレスチェックにて高ストレス判定されていなかった従業員がメンタル不調で休職する事例もございます。

「ココシル(R)」はメンタルストレスを客観的にスコア化し、過度なストレスにアラートを立てる検査です。
ストレス蓄積の「声なき声」を客観的に拾い上げ、適切なケアにつなげることでアブセンティーズム・プレゼンティーズムの低減・ワークエンゲージメントの向上につなげましょう。

「ココシル(R)」サービスは、尿検体を郵送いただいた後に、オンラインで結果レポートを返却させていただきます。結果レポートには、専門医によるストレスケアのアドバイスが掲載されており、さらにアラートの立った方には臨床心理士・公認心理師等によるオンラインカウンセリングを1回無償でご提供いたします。ココシルとEAPサービスを組み合わせもパッケージもご案内可能ですのでお気軽にご相談ください。

期待される効果		根拠の詳細		
【凡例*】◎:実証評価＞○:導入企業の評価＞●:理論的裏付け		導入企業の評価	理論的裏付け	実証評価
基盤整備	1. 法制度対応			–
	2. 制度・施策体系の整理			–
	3. 人事・産業保健業務の効率化・負担減			–
	4. 組織状況の把握	○		–
取組の普及・浸透	5. サーベイ受検率向上			
	6. 相談窓口の利用率・認知率向上			
	7. プログラムへの参加率・利用率向上			
	8. 不調の早期発見・対応	○	●	
	9. ヘルスリテラシー・意識向上	○		
	10. 仕事のストレス要因低減			
	11. 心理的安全性・上司のサポート力向上			
	12. 周囲のサポート力向上			
心の健康・業務パフォーマンス	13. 生活習慣の改善			
	14. 健康状態・心理指標改善			
	15. アブセンティーイズム改善			
	16. プレゼンティーイズム改善			
	17. ワーク・エンゲイジメント向上			
	18. 従業員エンゲージメント向上			
	19. 労務指標改善（離職率、残業時間等）			

*ウェルココ上で掲載される際に複数の根拠がある場合は、凡例の優先順で表示されます。

導入企業の評価（500字以内）

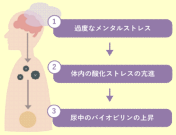
＜目的＞
問診ではわからない組織のストレス状況の可視化および不調者への早期対応。

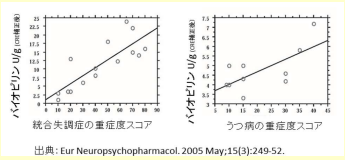
＜方法＞
若年層を中心とした約30名の従業員に、メンタルヘルスケア対策として「ココシル」を用いた検査を2回実施。検査間は約3ヵ月の間隔をあけて、測定値の変化を確認。測定結果は匿名化され、受検者本人とメンタルサポート室以外は閲覧できない仕様で運用。

＜結果＞
ストレスチェックで「高ストレス」に該当しなかった従業員の中にも、メンタルアラートが発令されるケースが確認された。全受検者のメンタルアラート発生率から、組織状況を可視化することができた。また、メンタルアラートの発令された者にはメンタルサポート室が面談を行い、早期の状態把握・対応につながった。さらにココシル受験者全員と人事担当者を中心としたプロジェクトチームが面談を行うことで、普段話題に上げることの少ない各個人のストレス状態について確認することができ、ココシルを受検した従業員の70%以上から、ストレスに対する関心や理解が深まったと回答が得られた。

理論的裏付け（500字以内）

ココシルは、尿中のバイオピリンという物質を測定する検査です。バイオピリンは、過度なストレスに伴う酸化ストレス状態の亢進によって上昇するといわれております。
実際に、バイオピリンとメンタルストレス・睡眠障害・精神疾患の関係は国内外にて広く報告されており、メンタル不調の程度に応じて上昇し軽減とともに減少することがわかっています。
以上より、ココシルはメンタル不調者の早期発見に貢献できる検査といえます。





出典：Eur Neuropsychopharmacol. 2005 May;15(3):249-52.

実証評価

学術介入の有無	エビデンスの水準

（学術介入有りの場合）氏名・所属・専門、掲載文献・発表した学会・演目名（500字以内）

実証評価の結果概要（500字以内）

メンタルストレス尿検査 ココシル

株式会社プリメディカ

様式3 導入企業の評価

該当する効果		
基盤整備	1. 法制度対応	
	2. 制度・施策体系の整理	
	3. 人事・産業保健業務の効率化・負担減	
	4. 組織状況の把握	○
取組の普及・浸透	5. サーベイ受検率向上	
	6. 相談窓口の利用率・認知率向上	
	7. プログラムへの参加率・利用率向上	
	8. 不調の早期発見・対応	○
	9. ヘルスリテラシー・意識向上	○
	10. 仕事のストレス要因低減	
	11. 心理的安全性・上司のサポート力向上	
	12. 周囲のサポート力向上	
心の健康・業務パフォーマンス	13. 生活習慣の改善	
	14. 健康状態・心理指標改善	
	15. アブセンティーイズム改善	
	16. プレゼンティーイズム改善	
	17. ワーク・エンゲイジメント向上	
	18. 従業員エンゲージメント向上	
	19. 労務指標改善（離職率、残業時間等）	

実施概要・結果

問診ではわからない組織のストレス状況の可視化および不調者への早期対応を実施目的とした。
若年層を中心とした約30名の従業員に、メンタルヘルスケア対策として「ココシル」を用いた検査を2回実施。検査間は約3ヵ月の間隔をあけて、測定値の変化を確認した。測定結果は匿名化され、受検者本人とメンタルサポート室以外は閲覧できない仕様で運用。ストレスチェックで「高ストレス」に該当しなかった従業員の中にも、メンタルアラートが発令されるケースが確認された。

成果・評価コメント ※「該当する効果」との対応がわかるよう（ ）内に効果のNoを付記する

ココシルのメンタルアラート発生率から、組織状況を可視化することができた。（４）また、メンタルアラートの発令された者にはメンタルサポート室が面談を行い、早期の状態把握・対応につながった（８）。さらにココシル受験者全員と人事担当者を中心としたプロジェクトチームが面談を行うことで、普段話題に上げることの少ない各個人のストレス状態について確認することができ、ココシルを受検した従業員の70%以上から、ストレスに対する関心や理解が深まったと回答が得られた。（９）

評価者情報

個社ごとの評価結果を根拠とする場合	企業名①	コガソフトウェア株式会社	業種	情報通信業
	部署名・役職	管理部 人事総務課 課長	従業員規模	50人以上1,000人未満
	企業名②		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
	企業名③		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
	企業名④		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
	企業名⑤		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
複数社からのアンケート結果を根拠とする場合	アンケート対象及び回答社数			
	実施時期・方法			
	主な設問内容			

メンタルストレス尿検査 ココシル

株式会社プリメディカ

様式4 理論的裏付け

該当する効果		
基盤整備	1. 法制度対応	
	2. 制度・施策体系の整理	
	3. 人事・産業保健業務の効率化・負担減	
	4. 組織状況の把握	
取組の普及・浸透	5. サーベイ受検率向上	
	6. 相談窓口の利用率・認知率向上	
	7. プログラムへの参加率・利用率向上	
	8. 不調の早期発見・対応	○
	9. ヘルスリテラシー・意識向上	
	10. 仕事のストレス要因低減	
	11. 心理的安全性・上司のサポート力向上	
	12. 周囲のサポート力向上	
心の健康・業務パフォーマンス	13. 生活習慣の改善	
	14. 健康状態・心理指標改善	
	15. アブセンティーイズム改善	
	16. プレゼンティーイズム改善	
	17. ワーク・エンゲイジメント向上	
	18. 従業員エンゲージメント向上	
	19. 労務指標改善（離職率、残業時間等）	

採用する理論的枠組みの概要 ※「該当する効果」との対応がわかるよう（ ）内に効果のNoを付記する

【バイオピリンの生理学的特性】
・バイオピリンはビリルビンの反応生成物であり、メンタルストレスをはじめとした酸化ストレス状態の亢進によって尿中に放出される
・東京医科大学：山口登喜夫先生（J. Biochem. 116,298-303 (1994)他）

【バイオピリンと職業ストレスの関連】（８）
・バイオピリンは職業ストレスを高精度に検出できる（感度80.9%、特異度83.3%）
・ カイロ大学　BH Mourad先生（J Occup Environ Med.2023 Jan 1;65(1):60-66.）

【バイオピリンの臨床特性】（８）
・バイオピリンは精神疾患（うつ病・統合失調症など）において、重篤度に相関して上昇。また治療の経過とともに減少
・(元)島根大学医　宮岡剛先生（Eur Neuropsychopharmacol. 2005 May;15(3):249-52.他）

理論的枠組みの活用方法

尿中バイオピリンの生理学的・臨床的意義の解釈に活用。尿中バイオピリン濃度に応じたメンタルアラートの設定は、既報の臨床データ等をもとに策定。